

## 令和7年度 第3回湯沢市部活動協議会 文化部記録

### (進行:事務局①)

- ・12月に案として拠点校方式を示した。それと並行して、部活動指導員配置についても、今協議を進めている。現在湯沢北中学校と雄勝中学校に配置しているが、湯沢南中学校と稲川中学校への配置も検討している。湯沢南中学校合唱部にも部活動指導員の人選と相談を3月に予定している。

また、吹奏楽部顧問の先生へのアンケート回答後、対応を検討し、不安や疑問に答える打合せ会を開催し、方向性を考えていく予定である。現在回答いただいているものを報告する。

### (事務局②)

- ・教職員の意見では、建設的な意見以上に、人、もの、金の心配事が多かった。楽器の貸与、移管をどうするか、練習場所が学校ならいいが、担当の教師が休日解錠、施錠しないといけない、楽器故障の修理の支払い、指導者の確保、移動等である。拠点校についてのアイデアや、スポンサーがいればいろいろなことができるのでは、クラブ費の予算立てが必要では、小学校もこの機会に地域クラブに移行しては、等の意見もあった。また、拠点校の案を具体的に書いてくださった方もいた。

### (事務局①)

- ・3月に打合せ会を開催できればと考えている。12月の協議会から少しずつではあるが、進めている状況である。

### (事務局②)

- ・予算が伴うこともあり、慎重に進めている。新年度・新体制の展望は。

### (事務局①)

- ・令和8年度、3年生引退後の秋に土日の地域展開ができればと考えており、進めるための話し合いを行い、関係する皆様の合意を得たい。部員数の減少で、今の4ブロックから3ブロック、2ブロック、1ブロックとなっていくのが今後の展開と考えるが、行政主導だと弊害が出る。地域クラブからの申出が出てきたところから進める形もあるのではないかと。行政ができること、できないことがある。それを示しながら話すことが必要。また、小学校のことも考えていかないといいけないが、中学校と同時進行でできるのか不透明。中学校が最初で、その次が小学校という見通し。

### (事務局②)

- ・教師からの話が出てくるまで行政は待つということか。

### (事務局①)

- ・待っているのではなく、情報を提供しながら話し合いをしたい。

### (事務局②)

- ・指導者も合同はできるが、地域クラブの展望が見えないと難しい。

(委員)

- ・人数が減ると自然と地域クラブへとなるのではないかと。令和6年度のアンケートだと、こだわりをもつ保護者もいた。突然、事務局から地域クラブとしての活動を行うことについては、戸惑うのではないかと。時間をかけてもう少し様子を見ていくことが必要ではないかと。

(事務局①)

- ・国の方針だと令和13年までに土日の地域クラブを確実に進めることとしているが、生徒数の減少を考えると遅いので進めていきたい。

(委員)

- ・例えば自分が湯沢東小学校で、平日と休日の活動で指導者をやると言えば、地域クラブになるのか。

(事務局①)

- ・学校長がいいと言えば可能ではないかと考える。

(委員)

- ・稲川小学校は、教職員の手を煩わせない環境になってきている。湯沢東小学校も指導者をやる人がいればできる環境にある。湯沢西小学校は、設備的にそういう環境がないので難しい。教育委員会でハード面の整備を行えばできるのではないかと。それが難しければ、土日だけ拠点校方式かもしれないが、そこから完全な地域移行になるにはどうしたらいいのかわからずもやもやしている。指導者が土日、平日可能で、練習環境があればできる。それを固めていくことが必要ではないかと。それから、地域クラブ、指導者、場所と決まってくるものとする。
- ・合唱部は湯沢南中学校のみなので、湯沢西・湯沢東小学校を合わせて複合施設等で先行してできるのではないかと。先行事例になる。

(委員)

- ・湯沢南中学校の指導者の目星がついているのなら、今ある合唱部だけでなく、市から他の学校にも呼びかけられるのではないかと。

(委員)

- ・例えば、小学校でブラスバンド部を手放し、指導者は一般の方が行う方法がある。

(事務局②)

- ・稲川小学校は担当の先生が数名配置されているが、指導者と保護者がメインで運営している。運営団体個人では難しいのではないかと。

(委員)

- ・運営団体個人でも運営できるのではないかと。

(事務局②)

- ・合唱は、指導者、スタッフがいればやれると思う。吹奏楽は、練習場所がない、楽器の移動等がある。部活動指導者が休日指導するとすれば、学校と関係なく施錠・解錠するという課題が出てくる。

(委員)

- ・ある程度、拠点校方式というのは仕方がない。拠点校方式で実施している間に、市が器をつくり、別の形を作るしかないのでは。拠点校は苦肉の策。運動部と同様の進め方とはいかないと考える。そうでないと、いつまでも同じだと考える。拠点校方式でいくと決まるならば、部活動指導員と教職員の意思疎通を図っていくしかない。

(委員)

- ・これまでいろいろなアンケートをしてきたので、保護者も方針が決まればやると思う。

(事務局②)

- ・10年後、本当に人がいない。教職員と建設的に見通しを話し合うべきだと考える。学校だと教職員でないと施錠できないなら、他の場所などを検討することも考えられる。市の方針を出すのか、教職員からの申出を待つのか。方向が決まらないと動けない。現状だと教職員は「市はどうしてくれるのか」で、「こういうことがしたい」といった意見がない。

(委員)

- ・令和8年度の大会の日程も出てきて、登録も必要になる。その中で地域クラブを先行してやるのは難しい。教職員も、秋以降と思っている。1年目、2年目と段階的に道筋を市で描き、スケジュール感を示すとよいのでは。もし現状と乖離したら(人数減等)地域クラブへの移行を早めるなど、前倒しも検討し完全実施までの絵を示すことが大事。令和8年度は、4つの拠点校に指導者を1人ずつ配置、土日も担当し、教職員は来ても、来なくてもいい。施錠は外部の方ができるところまで示さないと動かないと思う。
- ・中学校には3月までやることを示し、現場から試験的に動いてほしいとの要望があれば前倒しでできるかもしれない。
- ・小学校は、個別に指導者をやりたい人を探すしかない。指導者がいればできる。スポ少のように保護者のバックアップでできるのでは。
- ・音楽のまちゆざわ推進協議会がスケジュールを把握して、4つの拠点校に指導者がいないとき、指導者を派遣する形にすれば、初年度は実現できると考える。その後は、拠点校2つに指導者が2人、1つなら指導者を4人配置するなどが考えられる。それを見える化し、示すことで納得してもらえないのではないかと思う。

(委員)

- ・拠点校4つの先を示すとよい。

(事務局③)

- ・運動部で言えば、地域クラブがある競技は、その地域クラブに加入しないと休日に活動できない。吹奏楽部全員が地域クラブに加入しないといけなくなるのでは。休日に混ざって活動する形はできない。

(委員)

- ・では、土日だけ、活動しないこともできるのか。

(事務局③)

・できる。平日だけ学校部活動をする生徒もいる。

(委員)

・現状として地域クラブは土日どちらかの活動になるが、合唱や吹奏楽は、日曜日の行事が多い。もし日曜日を活動日とすれば、地域クラブで練習できる日がなくなる。4つの拠点校を1年ごとに一つに進んでいくのがよい。

(事務局②)

・土日に学校部活動はやらない、休日やるなら地域クラブへと示す自治体もある。

(委員)

・平日の地域クラブ、休日の地域クラブと二種類あるところもある。一つになるまでの道筋をつくっていくのが一番わかりやすい。

(事務局①)

・行政だけでなく、関係する皆さんで知恵を出し合って頑張っていきたい。

(委員)

・秋までに施錠に係る問題が解決できるようにしては。

(事務局②)

・計画がないと予算がつかない。

(事務局)

・予算要求できるように計画をつくっていきたい。

(委員)

・学校でできなければ近くの場所を見付けないと。4月スタート時には、骨子を示さないと差しつかえる。

(委員)

・施錠の考えについて教育委員会で認めていただければ。

(事務局②)

・施錠管理について、学校、学校運営協議会、PTA等と協議することも可能ではないか。

(事務局①)

・予定されている時間となりました。今後も協議を重ねていかなければならないかと思っておりますのでよろしくお願ひします。以上で文化部部会を終了します。